

インターバンクの声（2017年12月22日）

米長期金利の上昇が止まり、米7-9月期実質GDP確定値も下方修正されたとあって、昨夜のニューヨーク市場ではドルがやや軟調となった。米長期金利の伸びが鈍ったことによる影響は否めないが、GDP確定値の年率換算で前期比3.2%増加は2015年1-3月期以来の伸びで、それほど弱い数字ではないとも判断でき、個人消費が改定値から0.1%引き下げられた影響が強く出たのかも知れない。米税制改革法案が上下両院で可決されたことによるドル買い・円売りも結局長続きせず、クリスマス休暇を前にしてのポジション調整と市場参加者の大幅な減少にドル続伸期待も消えてしまった格好だ。日曜日がクリスマス・イブで週明けの25日がクリスマスとなるため、今日のロンドン、ニューヨーク勢の多くは既に休みモードになっていることだろう。27日からの再スタート待ちで良さそうだ。

※12/25～12/29の間、「インターバンクの声」は休刊いたします。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。